

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

本学は、地域社会との共生・共栄の観点から、大学の教育研究の成果および知的・教育的資源を地域社会に還元し、地域社会の知（地）の拠点となることを目指してさまざまな活動や施策を講じている。このような社会との連携・協力は、「キリスト教の愛の精神をもって社会に貢献することのできる人材を養成する」という本学の教育理念に合致するものである。

社会連携・社会貢献活動は、企画部が所管し、同部署が基本的な年間計画を策定する。同計画は予算案とともに理事会で審議・承認されたのちに実施される。公開講座のうち、主たる講座である「神戸松蔭土曜講座」は公開講座運営委員会（委員長：企画部長）で審議され、年間コンセプト、講座タイトル、講演者等を決定している（資料8-1）。

チャペルのパイプオルガンを使用したオルガン・レクチャーコンサート（無料）やワークショップおよびチャペル奉仕グループによるボランティア活動については、活動の特殊性に鑑みて、企画部ではなくキリスト教センターが所管し、きめ細かな対応を行っている。なお、年間計画は予算案とともに理事会で審議され、実行されるという手続きは同様である。

このような社会連携・社会貢献活動の推進拡充の方針は、毎年アクションプラン発表会（学長室）において中長期的に本学が目指す4つの目標のうちの2つとして学長が表明するところのものである（資料8-2）。また、教員評価のための評価項目や研究助成の対象分野として社会連携・社会貢献活動を指定しており、その取り組みの重要性・強化の方針は全学的に共有されているといえる（資料8-3）。

また特に、女子大学である本学は、社会の中で生涯にわたって学んでゆく女性を育成するためには、大学を起点として地域の人々と交流し、地域の住民から学ぶ機会を学生たちに提供することが大切であるとの方針のもと、1) 大学会館を活用した学生と地域の社会人との交流、2) 社会人への通常授業の公開、3) 地域住民の子育て支援、4) 学生と地元商店街が一体となった「まちおこし」、などの社会連携・貢献事業を展開している。

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

現在本学が実施している社会連携・社会貢献活動の概要は以下のとおりである。

①公開講座（資料8-4）

<神戸松蔭土曜講座>

一般市民向け公開講座は、従来「夏季公開講座」と「神戸松蔭土曜講座」の二本立てで開催していたが、2011年度より「神戸松蔭土曜講座」として統合した。

この講座は本学が地域社会に生涯学習の機会を提供する主要な事業として発展してきた。前期に7回と後期に4回開催される。

<フランス語集中講座>

1982年に第1回、2013年に32回目を迎えた。国内で他に例がないと言われるこの講座には次のような特徴がある。

- ・すべての講師が、外国人へのフランス語教育を専門とするフランス人の大学教員もしくは同等の職歴をもつ教員である。
- ・授業はすべてフランス語で行われ、これが3週間にわたって継続される。
- ・初級の3クラス、LL教室に日本人の助手が配属され、受講生の学習上の悩み・相談・質問に応ずるように配慮されている。

この公開講座は、充実したフランス語集中講座としてフランス語を愛好する地域住民からも高く評価され、再受講を希望する者も多く、市民の教養講座としての地位を確立している。

<神戸松蔭キリスト教講座>

1997年より六甲カトリック教会との共催で「神戸松蔭キリスト教講座」を年間7~8回開催してきたが（会場は六甲学院生徒研修所など）、2007年からは会場を本学キャンパス内に移し、キリスト教文化研究所単独の主催で「土曜講座」と連携して実施している。講座開設当初はほとんどの受講者がキリスト教信徒であったが、近年は団塊の世代の高い教養を志向する非キリスト教信徒の受講者が増加してきたことが、六甲カトリック教会との共催を解消した主な理由である。2013年度は「預言者アモスの思想」をテーマに計4回開催した。

<神戸松蔭ジュニア・テニス教室>

土曜講座の受講者アンケートの結果などを反映し、2008年度より、伝統ある本学テニス部のコーチが中心となって、地域の子ども達を対象としたテニス教室を開講している。

<授業公開講座>

本学学生のために開講されている講義の一部を学生の受講に支障のない範囲で一般（女性のみ）に開放する。1983年より継続して実施しており、2013年度の授業科目数は23科目で受講者は69名。

②神戸市灘区との包括連携協定（資料8-5）

2005年に大学と灘区が福祉、教育、文化、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的として包括連携協定を締結した。2013年度、2014年度は以下の連携事業を行っている。

<絆ゼミ>

「安心できるまちとは何か」をテーマにアンケート調査を実施し、人々が安心して暮らせるまちの条件を明らかにし、その具体的な像を描き出す研究を進めている。

<摩耶山活性化活動>

神戸市灘区が推進している摩耶山活性化活動に参画し、摩耶山の魅力アップ活動を実施している。

<神戸松蔭体験型親子講座「まつのみサークル」>

核家族化が進む日本で子育て中の父母を対象に、子どもの成長時の様々な事例を臨床心理士が紹介し、アドバイスを行う講座である。

③その他の地域連携活動（資料8-4、資料8-6）

<神戸松蔭親子フリースペース「まつぼっくり」>

神戸市との連携事業（神戸市地域子育て拠点支援事業ひろば型）として、学内に子育て中の親子が安心して集える施設を提供している。幼児と保護者、学生、地域の人と一緒に

遊び、経験豊富なスタッフ（保育士・教員・教務助手）が、楽しい子育てをサポートしている。

＜地産地消活動への参画（神戸市「KOBE “にさんがろく” PROJECT」）＞

神戸市内で生産される農漁業産品を素材とした製品アイデアを提案し、地産地消の推進を図る活動に参画している。

＜保育実践研究講座～HOIKU CAFÉ（保育カフェ）＞

保育実践エピソードによるカンファレンスを通して自己の実践を見直すとともに幼児教育・保育のいまとこれからを考える。今日の幼児教育・保育の動向に関する情報提供を行うとともに、保育や子育て支援に関わる人々のカウンセリングをかねた講座である。

＜女子力アップ料理講習会・栄養講習会＞

神戸市東灘区との連携事業として、生活学科食物栄養専攻専任教員が出向して料理講習・栄養講習を行っている。

＜食育フェア（東灘区主催事業）支援活動＞

東灘区が実施している「食育フェア」の食育活動に生活学科食物栄養専攻の学生が参加。受付、会場誘導などフェア全体の運営にも携わっている。

④神戸松蔭こころのケア・センター（資料8-7）

心理学専攻の大学院生の研修施設であるとともに、一般のクライアントに対して臨床心理士の資格をもつ本学教職員がカウンセリングにあたっている。また以下の社会連携事業も行っている。

＜春期・秋季無料相談会＞

年2回市民を対象とした無料相談会を実施している。

＜あゆみの会＞

心理学専任教員が、身近な人を亡くした方たちの自助グループである「あゆみの会」を運営し、支援している。

⑤キリスト教センターの諸活動（資料8-8）

英国聖公会のミッションスクールである本学のキリスト教センターは学内の宗教行事やボランティア活動のほか、地域社会に対してさまざまな連携・貢献活動を行っている。クリスマスツリー点灯式、キャンドル・サービスとキャロリング、クリスマス・チャリティーコンサートなどのクリスマス行事には地域住民も参加し、また日本有数のパイプオルガンを設置するチャペルにおいて、バツハ・コレギウム・ジャパンの定期演奏会をはじめ、講座、ワークショップ、レクチャー・コンサートなどを開催している。

＜オルガン・レクチャーコンサート＞

年8回。演奏者自身が解説を行い、演奏する無料のコンサートシリーズ。

＜オルガン・マスタークラス＞

年4回。オルガンを専門的に学んだ受講生、および聴講生のための、著名なオルガン奏者による公開レッスン。

＜わくわくスクール「パイプオルガンにさわってみよう」＞

小学3～6年生を対象とした、本学のオルガン講師によるオルガンの仕組みと魅力への案内。

＜ボランティア・カフェ＞

週末にチャペルで行われるコンサートに合わせて、学生がボランティア・カフェを営業。仕入れは大学が負担し、売り上げ全額を児童福祉施設に寄付する。

⑥学生ボランティア活動（資料 8-9）

本学はさまざまな形で学生のボランティア活動を支援し奨励している。教育後援会も予算計画の中にボランティア活動の補助費を計上し、参加した学生の申請に基づいて交通費の一部を補助している。

第6章で述べた「松蔭 GP」の「被災地に身を置くことから始めよう」（2012年度）では東日本大震災の被災地でボランティア活動を実施し、「Blue Earth Project」（2012～2014年度）の「Blue Earth 塾」では、環境保護や国際協力活動を実際に行った大学生が小中高生に向けて様々な地球規模の問題を提起し、解決策について考えてもらうことを試み、成果をあげた。子ども発達学科や心理学科の学部生および心理学専攻の大学院生はスクール・サポーターとして神戸市内の小中学校に出向き、特別支援学級や普通学級で授業の補助を行っている。また大学コンソーシアムひょうご神戸の学生交流委員会に学生委員として参加し、東北の被災地におけるボランティア活動も行った。書道部と松蔭 GP エコプロジェクトは灘区主催の「総合芸術祭」に参加し、市民と共に手づくりイベントを実施している。

⑦地方公共団体、学校等への講師派遣（資料 8-10）

専任教員が、地方公共団体等から委嘱を受け、講演会の講師や審議会委員などの社会貢献活動を行っている。2013年度はのべ64件、2014年度（11月まで）はのべ64件である。

2. 点検・評価

●基準8の充足状況

本学は教育研究の成果および本学の有する教育資源を社会に還元する努力を以上のように多方面で継続しており、同基準を充足している。

①効果が上がっている事項

神戸松蔭土曜講座、子育て支援講座・講習、その他の地域連携活動の成果に基づいて、平成25年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」：タイプ2「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」に申請し、採択された。これによって松蔭大学会館の3階3室を、大学が地域の課題解決および地域連携のために行う講座・講習・会合等の拠点となる「地域コミュニティルーム」として整備した。

従来は、本学教員の公開講座に代表されるように、大学の知的・教育的資源の地域社会への還元がほとんどであったが、近年は「絆ゼミ」「KOBE “にさんがろく” PROJECT」「食育フェア」のように学生を巻き込んだ形での地域連携も活発になり、幅広い連携が進んで来ており、学生の成長にとっても有意義な活動となってきている。

②改善すべき事項

本学の多岐にわたる社会連携・社会貢献事業は学内各部署が企画部と連絡を取りながら実施しているが、その連絡連携の度合いは様々で、事業によっては比較的独立性の高いものもある。企画部が本学の社会連携・社会貢献活動全体を統括し組織化することが望まし

いが、十分に達成できているとは言えない。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

これまで学内で開催されていた社会連携・社会貢献事業を順次地域コミュニティールームに移すとともに、企画部が中心となって、地域コミュニティールームの充実した設備と立地を活かした新たな事業を計画していく。

②改善すべき事項

事業の実施後翌年の改善につなげるためにアンケートを実施し、企画案を練るなど PDCA サイクルを意識した事業計画を立てていきたい。

また、今後は施策・事業の企画段階から企画部が関与し、本学の社会連携・社会貢献活動全体を企画部が統括し、学長室・理事会との連絡を密にし、検証・改善につなげていきたい。

4. 根拠資料

- 8-1 公開講座運営委員会記録 (2013 年度)
- 8-2 アクションプラン配付資料 (2013 年 5 月 30 日、2013 年 3 月 21 日) (既出 2-2)
- 8-3 教育研究業績書 (様式)
- 8-4 公開講座総合案内 (2013 年度前期・後期、2014 年度前期・後期) (「保育実践研究講座 (保育カフェ)」を含む)
授業公開講座提供科目一覧 (2013 年度、2014 年度)
- 8-5 神戸市灘区との連携協力に関する協定書
摩耶山活性化プロジェクトチラシ
まつのみサークルチラシ
絆ゼミ「NADASAKA SAKASU」(既出 4(3)-5)
- 8-6 神戸松蔭女子学院大学ホームページ抜粋
親子フリースペース「まつぼっくり」
<http://www.shoin.ac.jp/contribution/area/matsu.html>
KOBE “にさんがろく” PROJECT
http://www.shoin.ac.jp/plus_s/learn/introduce/kobeproject.html
武智ゼミ「ももんぶらん」
<http://www.shoin.ac.jp/news/2013/12/000637.html>
第 8 回食育フェア
<http://www.shoin.ac.jp/news/2014/11/000827.html>
女子カアアップ料理講習会・栄養講習会チラシ
- 8-7 神戸松蔭こころのケア・センターリーフレット (既出 2-15)
2014 年春期無料相談会チラシ
「あゆみの会」チラシ
- 8-8 2014 オルガンプログラム案内
2014 クリスマス行事案内

- 8-9 「被災地に身を置くことから始めよう」報告書
 - Blue Earth 塾趣意書
 - スクールサポーター制度実施に係る協定書
- 8-10 講師等派遣依頼一覧（2013年度、2014年度）